

科目名	スポーツ医学特講	担当者	モリモト ユウスケ 森本 祐介	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、スポーツ医学の概略と役割および代表的な疾患について学び、スポーツ活動において発生する医学的な問題（外傷、障害、病気など）に対してスポーツ医学的な立場でその病態や発生原因、対処法について理解を深めることを目的とする。</p> <p>さらに、スポーツ医学で得た知識が一般社会にどのように還元できるかを考える。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（G10）】 スポーツ医学の概念を理解し、スポーツ外傷・障害・病気について理解する。</p> <p>【行動目標（SB0s）】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① テキストの学習を通してスポーツ医学の概要・役割を理解する ② テキストや参考文献を用いて疾患について理解し、発生機序や病態、対処法を論理的に説明できる ③ スポーツ現場で発生する医学的な問題点を抽出しその解決方法を論ずる。 ④ スポーツ医学の社会への還元について考えを述べる 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 テキストや参考文献を用い知識の習得を図り、課題となるテーマを決定しレポートを作成する。質問やテーマの相談などはメール・web ミーティングを用いて行う。フィールドワーク（スポーツ医学の現場）体験を希望する者は教員と相談する。</p> <p>【学修方略（LS）と学修時間】 レポート課題を進めることで学習・理解を深め、論理的な思考を身に着ける。 各課題に対し 30 時間以上をかけテキストや参考文献の学修を行い、20 時間以上かけレポート作成、修正を行う。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材 1 リポート課題 1 の草案を 7 月 31 日までに作成。課題 2 の草案は 8 月 31 日までに作成。 草案として取り上げるテーマは事前にメール等で相談の上決定する。</p> <p>後期：教材 2 または 1 のリポート課題 1 の草稿は 11 月中旬、課題 2 は 12 月中旬を目処に提出する。 取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談する。</p> <p>いずれの課題も学事歴で定められた日までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	学習の深度、問題提起の妥当性、問題解決の論理的思考・客観性、および文献の検索能力や参考文献選択の妥当性も併せて評価する。
	観察記録	20 %	メール等でのやり取りを通じて、学習に対する態度、積極性などを評価する
履修者への要望	<p>スポーツ医学はスポーツ現場で安全にスポーツ活動を行うために必要であることに加え、傷害の改善や競技力向上を目指す方法の一つである。スポーツ医学の概要とその意義を理解し履修者自身の今後のスポーツ現場での活動に役立つ知識・考えを身に付けてもらいたい。さらにスポーツ医学が競技スポーツにとどまらず広く社会に利益をもたらす可能性について考えてもらいたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習はテキストのみならず参考となる図書・文献を自ら検索しまとめてください。 2. レポートを作成する場合は事前にテーマと概略をメール等にて相談してください。 3. レポートに関しては簡潔にまとめることが必要です。 4. テーマの選択は内科系・外科系と自由ですが、今後遭遇するであろうもの、またはこれまで経験したことが望ましい。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： (1)小出清一，福林徹，河野一郎編 教材名： 『スポーツ指導者のためのスポーツ医学』（南江堂，2009年） ISBN：978-4-524-24034-0 3,200円十税 外科系、内科系の外傷・障害について、発生メカニズムから症状、現場での処置、医学的治療までをわかりやすくまとめ解説している。
参考図書	林光俊編集主幹『ナショナルチームドクター・トレーナーが書いた種目別スポーツ障害の診療』（南江堂，2014年）ISBN：978-4-524-26916-7 6,800円十税
履修上のポイント	スポーツ医学の概要を学び全体像を把握する。スポーツ傷害について、その発生機序や病態、それらに対する処置処置法を理解する。さらに、現場での問題点を考え考察する。
レポート課題 1	スポーツ医学とは何かについてまとめ、スポーツで発生する医学的な問題（外傷、障害、内科的な疾患）について一つ取り上げその疫学、病因病態、対処法、リハビリテーション、競技復帰、再発予防について述べる。
レポート課題 2	レポート1で選択した課題以外で、その疫学、病因病態、対処法、リハビリテーション、競技復帰、再発予防などに関して、最新の知見も踏まえて述べる。 留意点： なるべく自分自身の経験を基にする（家族や周囲の方の事例でも可）。

基本教材 2	
教材の概要	(1) 興水健治著 『基礎から学ぶ，スポーツ救急医学』（ベースボールマガジン社，2009年） ISBN:978-4-583-10213-9 1,600円+税 著者名： 教材名： (2)日本整形外科学会、日本運動器科学会、ロコモティブシンドローム診療ガイド策定委員会 『ロコモティブシンドローム診療ガイド2021』（文光堂、2021年） ISBN 978-4-8306-2748-4 3850円
履修上のポイント	(1) スポーツ選手、指導者、トレーナー、保護者向けに、AED(自動体外式除細動器)の使い方、CPR(人工呼吸+胸骨圧迫)のやり方など、安全なスポーツ環境づくりと応急処置について解説。 (2) ロコモティブシンドロームの概念や評価、予防対策についてエビデンスに基づき解説。
参考図書	一般社団法人日本スポーツ医学検定機構 『スポーツ医学検定公式テキスト 2級・3級 改訂版』東洋館出版社 ISBN 9784491041193 2,090円
履修上のポイント	スポーツ医学を学んだ知識は広く社会に役立つものとなることを理解する。救急蘇生や救急処置なども日常生活や災害時に有用なスキルとなる。これらの知識や技術を学び躊躇なく救急対応が施行できるようにしておく。さらに、現在日本の社会や世界の国々で起こっている問題やこれから起こる問題をスポーツ医学の知識を用いて少しでも改善する可能性を考える。
レポート課題 1	一般的なスポーツ外傷の救急処置についてそのエビデンスを含めてまとめる。 スポーツ現場で発生する突然死を取り上げその疾患に対する病因病態について述べ、実際の場면을想定し具体的な対応手順について述べる。
レポート課題 2	平均寿命と健康寿命、ロコモティブシンドロームの概念、運動器の障害の代表的な疾患について述べる。ロコモティブシンドロームの対処法と、健康的に長生きすることに関するスポーツの意義・役割について述べる。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	教材 1 の学修：スポーツ医学の定義、内科的・外科的スポーツ外傷・障害の概要について理解する
第 3 回	教材 1 の学修：膝・足関節・肩・肘の主な関節外傷について学修する。
第 4 回	教材 1 の学修：肉離れやオーバーユースによる傷害・アスレチックリハビリテーションについて学習する
第 5 回	教材 1 の学修：内科的なスポーツ障害、成人病に対する運動のかかわりについて学修する。
第 6 回	教材 1 の学修：成長期・中高年・女性のスポーツ傷害について学修する
第 7 回	課題 1 のテーマを決定
第 8 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 11 回	課題 2 のテーマを決定
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 をとらうして本課題に対する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	教材 2 の学修：スポーツ現場での一次救命処置・CPR・AED の使用方法について学修する。
第 3 回	教材 2 の学修：スポーツ現場での突然死・熱中症など緊急を要する疾患について学修する。
第 4 回	教材 2 の学修：ロコモティブシンドロームの定義と疫学を学修する。
第 5 回	教材 2 の学修：ロコモティブシンドロームの評価方法、対象疾患を学修する。
第 6 回	教材 2 の学修：ロコモティブシンドロームに対する予防・対策について学修する。
第 7 回	課題 1 のテーマを決定
第 8 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 11 回	課題 2 のテーマを決定
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 をとらうして本課題に対する全体的な理解の検証